土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　　地方港湾 蒲刈港 港湾海岸保全施設整備事業に伴う業務委託(その2)

事業名または工事名

調査目的及び調査対象　　海岸・海洋　護岸

ボーリング名	No.2	調査位置	広島県呉市蒲刈町大浦			北　緯	34° 10′ 53.621″
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所			調査期間	令和03年11月24日～令和03年11月27日	東　経	132° 45′ 14.232″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	T.P. 3.79 m	角度	180° 上 90° 下 0 0°	方位	北 0° 東 90° 180° 南 270° 西	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦 D1-G
総削孔長	11.00 m								エンジン	ヤンマー NFD-12	ポンプ	東邦 BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定年月日
1				礫混り砂	S-G	暗灰	rd2		φ10～50mm大の亜角礫点在。30～40%内外のシルトを混入。	
2	1.29	2.50								
3	0.09	3.70		礫混り粘土	CH-G	茶褐		rc3	φ10～30mm大の亜円礫点在。粘土化の進行した強風化流れ真砂。	
4				花崗閃緑岩・砂質土	Gd_SF	黄褐	rd4		岩組織残留するが不鮮明。風化著しく粘土混り砂状風化。礫片はクサリ礫風化。	
5										
6										
7										
8										
9										
10	-6.21	10.00		花崗閃緑岩・軟岩	Gd_WR	黄褐	rd5		岩組織残留するが、指圧で容易に分解し礫混り砂状を呈す。礫片はクサリ礫風化。	
11	-7.21	11.00								
12										

標準貫入試験

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
13	1.15	6	3	4	13		
	1.45				300		
14	2.15	3	5	6	14		
	2.45				300		
5	3.15	1	2	2	5		
	3.45				300		
12	4.15	3	4	5	12		
	4.45				300		
15	5.15	4	4	7	15		
	5.45				300		
14	6.15	4	5	5	14		
	6.45				300		
16	7.15	4	6	6	16		
	7.45				300		
22	8.15	5	6	11	22		
	8.45				300		
34	9.15	10	12	12	34		
	9.45				300		
88	10.00	16	34		50	170	
	10.17		70		170		
83	11.00	20	30		50	180	
	11.18		80		180		

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
2.15	No.2 P-02-		密度・含水・粒度・液塑	
2.45				
3.15	No.2 P-03-		密度・含水・粒度・液塑	11/25
3.45				
6.15	No.2 P-06-		密度・含水・粒度・液塑	
6.45				
9.15	No.2 P-09-		密度・含水・粒度・液塑	
9.45				
				11/26